年間授業計画

高等学校 令和４年度（１学年用）　教科 総合的な探究の時間　科目 探究と創造

教　科： 総合的な探究の時間　　科　目： 探究と創造　　単位数：　　単位

対象学年組：第　１学年　１組～　３組

教科担当者：（　組：１　）　（　組：２　）　（　組：３　）

使用教科書：　課題探究メソッド２nd Education より良い探究活動のために（啓林館）　　）

教科　総合的な探究の時間　　の目標：

【知識及び技能】過去の文献や資料、実験や観察、また、アンケート・インタビュー調査等の様々な方法により必要な情報を収集する。

【思考力、判断力、表現力等】簡単には答えの出ない問いを自ら見つけ、解決の見通しが立ち、実行可能なRQから仮説を設定する。課題とその背景を踏まえた知識体系をつかみ、客観的根拠を示した主張を自らの言葉で説明する。与えられた情報を鵜呑みにせず問いを立て、また、他者からの質問・指摘・批評を吟味し、柔軟に自説を再検討する。

【学びに向かう力、人間性等】活動そのものを客観的に把握し、言語化するとともに、他者に考えや思いをしっかり伝える。

科目　探究と創造　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
過去の文献や資料、実験や観察、また、アンケート・インタビュー調査等の様々な方法により必要な情報を収集できる。	簡単には答えの出ない問いを自ら見つけ、解決の見通しが立ち、実行可能なRQから仮説を設定できる。課題とその背景を踏まえた知識体系をつかみ、客観的根拠を示した主張を自らの言葉で説明できる。与えられた情報を鵜呑みにせず問いを立て、また、他者からの質問・指摘・批評を吟味し、柔軟に自説を再検討できる。	活動そのものを客観的に把握し、言語化するとともに、他者に考えや思いをしっかり伝えることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
１学期	現代社会と探究活動の授業とのかかわりを学び、QCの目的について考えられるようにする。グループ活動を通じて計画的に行動する意義を学ぶ。メタ認知から目標を言語化し、双方の情報伝達を体験する。	QCの目的や、目標について一人ひとりがグループワークを通じて考える機会にする。グループワークとは何か、その意義について理解させる。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	2
	リサーチクエスチョンの設定と仮説を立てる。	高校卒業後の進路と密接につながる探究活動という意味づけを行う。 自らの興味関心に基づいてゼミ分けを行い、ゼミ毎の活動を始める。 探究のゴールと情報収集の在り方を学習する。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	6
	調査・実験を行い、夏季休業中の研究計画をたてる。	調査・実験を主体的に行う。行う必要に応じて、研究機関、地域の教育や福祉を担う施設や商業施設等との連携を図り、実践的に、社会や人々と関わる態度や行動力を身に付けるようにする。 中間発表の準備をする。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	4
２学期	中間発表を行い、課題設定について再検討する。ポスターセッションによって発表の構造と技法を学ぶ。先行研究・事例を調べ、学ぶ。見通しを持った研究計画を再考し、新たな仮説を設定する。調査・実験を始める。	中間発表を通じて、異分野との連携を意識するなど、創造の芽を培う。課題設定を再検討し、見通しを持った探究活動の実現を目指す。探究の手法を再度見直し、リサーチクエスチョンを議論し、仮説設定につなげる。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	8
	調査・実験を主体的に行う。行う必要に応じて、研究機関、地域の教育や福祉を担う施設や商業施設等との連携を図り、実践的に、社会や人々と関わる態度や行動力を身に付けるようにする。 最終発表の準備をする。	仮説検証型のゼミ活動を進める。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	6
３学期	調査・実験のデータを得て、結果をまとめる。研究内容をまとめ、発表準備を行う。	これまでの振り返りを整理させる。不足していることで補えることを確認し最終的なまとめに入る。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	2
	調査・実験のデータを得て、結果をまとめる。研究内容をまとめ、発表準備を行う。	最終発表会やその準備を通して、普遍的な探究手法への理解を深め、メタ認知により次年度を個々に考えられるようにする。プレゼンテーションの観点についても理解を深める。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	3
	最終発表会の振り返りをまとめる。	最終発表会やその準備を通して、普遍的な探究手法への理解を深め、メタ認知により次年度を個々に考えられるようにする。プレゼンテーションの観点についても理解を深める。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	2
	学年全体でのオーラルプレゼンテーションを行う。１年間を振り返り、コア・プログラムⅢ・Ⅳへ向け、創造的な連携を模索する。	全体発表会を通じて異分野との連携を考えさせる。また、高等学校卒業後の進路選択と関連づけられそうな新たな課題設定を模索させる。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。	○	○	○	2
							合計 35